

林災防柄発第116号
令和7年12月15日

会員事業場（林業関係）各位

林業・木材製造業労働災害防止協会栃木県支部

支部長 東 泉 清 寿

（公印省略）

林業現場におけるクマ類による林業従事者等の人身被害防止の徹底について

日頃より、林材業における労働安全衛生活動の推進につきまして、特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、先般、林災防本部より、林野庁から発出されました「林業現場におけるクマ類による林業従事者等の人身被害防止の徹底について」の周知依頼があつたところです。

今年度のツキノワグマ及びヒグマ（以下「クマ類」という。）による人身被害者数は9月末時点で108名と、被害が甚大であった一昨年と同じ水準であるほか、死者数は10月27日現在で10名と、すでに過去最多を更新しており、非常に深刻な状況となっています。

そのような中で、10月には新潟県の林業関係者2名が林内での測量作業中にツキノワグマに遭遇し、負傷する事故が発生するなど、森林域における人身被害の危険性が高まっている状況にあります。

つきましては、貴事業場における関係者に対し、クマ類による被害防止の関連情報（以下の【参考】をご参照ください。）を周知いただき、特に林内に立ち入る際は、予期せぬ遭遇による事故の危険性があることを常に認識し、緊急連絡体制を再確認され、新しい足跡やフン等の痕跡があるなど出没の危険性が高い地域を避けるとともに、鈴やラジオなど音の鳴る物やクマよけスプレーを携行するほか、蓋付きの容器による匂いの漏出防止や残飯の持ち帰りなどの食品管理を徹底するなど、遭遇リスクの回避及び遭遇した際の対策を徹底することについて、強く注意喚起していただくようお願い申し上げます。

なお、林内での作業に当たっては、別添のチラシ等を活用され、労働災害の防止を図られますようお願いいたします。

【参考】

○環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアル改定版」

<http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html>

○環境省WEBサイト「クマに関する各種情報・取組」

<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

□事務局

宇都宮市新里町丁277-1

TEL 028-652-2153

担当：大貫、齊藤

クマに遭遇しないために

【林野庁】

皆さんの現場は、クマの生息域です。常に、近くにクマがいるかもしれませんと注意しながら作業しましょう。

林業の現場では、特に冬から春にかけて「巣穴付近での被害」が発生しています。

クマ類が生息している山林で作業する際は、
以下の事項について注意願います。

- ① 単独行動を避け、鈴やラジオなど音の出るものを携帯し、人の存在を知らせてください。
クマ撃退スプレーの携行も推奨されます。
- ② 混合油などの燃料は、クマの誘引物とされています。
給油場所、保管場所では周囲に注意を払ってください。
- ③ 弁当等の食品管理を徹底してください。
※においの漏出を防ぐため、丈夫なプラスチックや金属製のフードロッカーの利用も検討してください。
- ④ 岩陰や乗り越える尾根の先などの見通しの悪い場所では、クマと突発的に遭遇する可能性があるため、手前で立ち止まって大きな声を出すなどにより安全を確認してください。
- ⑤ 冬から春先にかけては、倒木、岩穴や木の根上がり等の空洞といった巣穴（冬眠穴）として利用しそうな場所には、不用意に近づかないでください。

巣穴の例（撮影：佐藤嘉宏）



倒木の根元



樹洞



樹洞

「遭遇した場合」については裏面へ

詳しくは、環境省作成マニュアル

「クマ類の出没対応マニュアル－改訂版－」を参照願います。

※クマ撃退スプレーは、有効成分・濃度・噴射距離・時間など性能差があるので確認して選んでください。
なお、製品の性能は、EPA（米国環境保護庁）に登録されたものが参考となります。



クマ類に遭遇した際にとるべき行動

(1) 遠くにクマがいることに気がついた場合

落ち着いて静かにその場から立ち去ります。

(2) 近くにクマがいることに気がついた場合

クマを見ながらゆっくり後退する、静かに語りかけながら後退する、など落ち着いて距離をとるようにします。

慌てて走って逃げてはいけません。

(3) 至近距離で突発的に遭遇した場合

攻撃を回避する完全な対処方法はありません。

クマは、顔面・頭部を攻撃することが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、直ちにうつ伏せになるなどして重大な障害や致命的ダメージを最小限にとどめることが重要です。

(4) 親子グマとの遭遇

子連れのクマと遭遇した場合、速やかにその場から離れることが必要です。

(5) クマ撃退スプレーによる撃退

クマの目や鼻・のどの粘膜にスプレーが当たるよう、顔に向かって噴射することが重要です。

射程距離は 5 m 程度と短い製品が多いため、十分クマを引き付けてから噴射する必要があります。

クマと遭遇した際の正しい対処法については、環境省作成マニュアル「クマ類の出没対応マニュアル改訂版－」等で確認ください。